

Japan Evangelical Theological Society

日本福音主義神学会

J·E·T·S・ニュース (II)

発行所 〒651 神戸市中央区中島通2-3-5 神戸ルーテル神学校内

人生の始めと終わり

| 伝道の書十二・一一七 |

カール・ヘンリー



伝道の書の著作年代については色々の説がある。その内容はしかし、現代的である。そこには、絶望と悲觀論的な哲学がある。

例えば、一・七「下界の一切都是目的がなく、全ては循環するものである。二・十一「人生に意味はない。労苦は風をとらえるようなものである。三・十九「人間は獸と同じ運命を持つ。八・十四「歴史には目的がない、など。

しかし、この書がそのような哲学を勧めているとするのは誤まりである。それでは、伝道の書の目的は何か。

それは絶望、悲觀論的哲学に我々を出会わせ、目をさまさせる目的をもつ。そして、神は人間にも歴史にも目的を与えて、それを啓示したもうたということを我々が知るために書かれたのである。

「災の日が来る前に」「創造者を、「覚えない」者は、災の日に向かって進む。そして「何の喜びもない日」を迎えるのである。伝道者は、人が長生きすることを想定して言っているが、六十や七十代の人を対象として語っているのではなく、語られているのは他ならぬ「私」なのである。

また、「雨」を神の祝福に、「雨雲」を良心の可責や悲しみ、不安に与えられるのである。伝道者は、人が光だが、神を遠くに置く者は、また雨雲がおおうのだ。神に自分の人生を獻げる人とそうでない人の対照がここにある。苦難や試練に対する時、神に信頼をおけば、神はその人を損われないのである。「災の日が来ない内に」とは、試練や苦難が来る前に神に信頼を置くかどうか、その神との関係を問うのである。

五・一「伝道者は、神の御言葉を聞き、御心に従えと言っている。五・十八「人生を神の賜物として楽しめ。そして十二章は、結局神を恐れ、神に聞き従え、これが人間の本分であると言つて幕が閉じられるのである。

それでは、十二・一一七を見てみよう。

一節。「若い日に」—これは与えられた一番初期の可能性がある内にという意味である。「覚えよ」—専門的意味を持つ語であるが、これは主に「贖い」を思うことである。つまり、「創造者にして贖い主である主を覚えよ」という意をもつてている。

精神は体よりこわれやすい。老いると精神は暗くなつてゆく。だから、精神がエネルギーを持ち、神のことと神のみこころを考え得る内に、また、良心が繊細で感受性の強い内に、さらに、心がその働きを充分にでき、創造力が神の用の為に充分間に合う間に、創造者を覚えよというのである。

である。

一つは、「靈的な成功を体験しなければ、本当の成功はない」もう一つは「老いるのを待たなくとも若い内に靈的な体験をすることができる」

さて、二・一六節は、隠喩が続く。人を嵐によつてうちたたかれてきた家に譬える。何年も嵐にうちたかれ続けた家に何がおこるか。

二節。ここは人の心のことを言う。人の周りには光がある。「ロゴスは全ての人を照らす光だ」とヨハネは言った。また理性をローソクに譬えているところもある。

三節。ここからは、肉体的な面についての隠喩である。人間を家にたとえている。「力のある男たち」家を支えるもの一柱や梁であり、それは肩や足のたとえである。年を取ると、それらの力が衰え、体をかがませねばならなくなる。そうなる前に創造者を覚えよと言ふのである。

「粉をひく女」とは歯を表現し、人生の終わりにそれが少くなつてゆく前に覚えよの意であり、「窓からながめる目」はもちらん目のことである。それが暗くならぬいうちに……。

四節。通りのとびらは……」「白をひく音

も低く……」「一年寄りの食べ方、口の動かし方を思い起こしてみよ。

「歌を歌う娘たちは……」美しい声で神を賛美できなくなる前に覚えよということ。

このように、神を拒否する人は、感覚的な喜びしかないが、それも年老いるともう喜ぶことのできない状態になってしまふ。しかし、神に信頼する人は、靈的な喜びがあり、復活の体の希望がもてるのだ。「若いうちに、すべての賜物を神と人のために献げよ」ということである。

五節。老人はなるべく低い所に、



いようとする。「アーモンドの花……」アーモンドは白い花をつける。そく姿。イザヤは、我らの苦しみ悲しみは、主が背負って下さると言うが神との関係を断つた人は、それを共に担つてくれるものがいるのである。

「欲望は衰え」(新改訳では直訳して、

「ふうちょううぼくは花を開く」となつて

いる)——人生において何の喜びもなく、そのまま人生にとどまることを欲しなくなつた状態。そして、

「永遠の家」つまり死へと歩いて行く。

そう望みもしないのに。その道はイエスが用意された道ではないのだから。「嘆く者」——泣き女。「誰が私のために泣く人となってくれようか」という気持ちがある。

六節。ここにある四つの物は人生の最後の状態を語るクリマックスである。「銀の紐」——結合力が切斷される。「金の器」——頭脳がその機能をやめる。「水がめ」——臓の働きが止まる。「滑車」——血

七節では、こうなる時に、肉はちりに帰り、靈は神に帰るという。体はこうなるが、靈は神のものである。

人生とはこういうものだが、その人は神の賜物なのだ。このことは、創造によつて与えられた命ばかりでなく、主の贈りと復活によつていた。

心と肉体がこれらの隠喩のようになる前にこの身心を、人生を、神に獻げよ!

この演題は、去る一月一日・二日福音主義神学会主催、キリスト者学生会共催(会場、大阪キリスト教短大)でなされた第一回講演です。GKの荻原也氏がテーマを起して下さいました。氏に感謝いたします。

尚、講演会の会計は左記の通りです。

収入	支出
席上献金	183,600
	講師謝礼 50,000
	通訳〃 30,000
	宿泊費 30,290
	会場費 20,000
	事務費 29,380
	歓迎レセプション費 20,000
計	その他 3,930
	計 183,600

一九八〇年主要行事

一九八〇年一月二一日～二三日日本福音主義神学会創立一〇周年記念「神学研究会議」カール・ヘンリ

カール・ヘンリー著「キリスト者の社会的責任」が、宇田氏監修、五島、村瀬両氏共訳でいのちのことば社より発行せられた。

四月一四日(月)東部部会総会及

GKの荻原也氏がテーマを起して下

さいました。氏に感謝いたします。

五月一二日(日)西部部会総会及

び理事会が開かれた(学会誌一号

一〇六ページ)。

五月一九日(日)全国理事会がお

茶の水学生会館で開かれ、理事担当者、予算、活動方針について審議した。

一月一七日(日)西部部会秋期講演会が、大阪ルーテル教会で開かれた。説教、高橋久之氏、講演「一九世紀におけるイギリスの敬虔主義運動とその意義について」工藤氏、別冊「黙示録の七つの教会」山口昇氏。

一月一七日(日)全国理事会

研究会議の開催について。部門

別の研究発表の場を設けて、隔年

で行う。

国際交流の可能性について。

地区活動の強化、とくに中部地

域について

二月一日(日)東部研究委員会、

講演会、講演者、清水 沢氏

一九八一年
一月一日～二日、カール・ヘンリ
博士による新春聖書講演会が、キ
リスト者学生会共催の下に開かれ、キ
リスト者三回の講演会に延べ三五〇名の出席
者があった。

(村瀬俊夫)
新約部会としては、昨年九月に数
名の会員が集まって一泊の研修会を
した以外、ほとんど活動らしいことは
しなかった。それで宮村武夫氏と
相談し、今年は一日だけの新約部会
を二回くらい開きたいと願っている。
取りあえず、スコットランドのア
バディーン大学神学部で研鑽をつみ、
昨年帰国された内田和彦氏に研鑽の
成果を報告していくことを中心
に、六月十二日(金)午後二時から
四時半まで、御茶の水学生キリスト
教会館二～三号室で新約部会を開く
ことにしている。そのとき参加して
いたいたい方々で、今後の活動を話
し合う予定である。

(村瀬俊夫)

新約部会とては、昨年九月に数
名の会員が集まって一泊の研修会を
した以外、ほとんど活動らしいことは
しなかった。それで宮村武夫氏と
相談し、今年は一日だけの新約部会
を二回くらい開きたいと願っている。

組織神学部門

新約部会としては、昨年九月に数
名の会員が集まって一泊の研修会を
した以外、ほとんど活動らしいことは
しなかった。それで宮村武夫氏と
相談し、今年は一日だけの新約部会
を二回くらい開きたいと願っている。

これまで、組織神学部門では、福音主義神学の可能性、性格などの総論的なテーマを取り上げてきました。未だ充分な認識を得たとは思えませんが、本年は、各論の部分に入りそれについて深く掘り下げた研究を行いたいと願っています。聞くところによりますと、ローランヌ会議

(湊 晶子)

旧約部門

去る二月六日(金)夜七時から九時まで、聖契神学校にて、新年度の方針について次の諸点について話し合った。福音主義に立った旧約聖書学のあり方を具体的に論じる必要性について。緒論的問題と教義的問題を分離しないで、真に聖書的な方法論を確立すべきであること。新約との関わりのなかで旧約を研究し、それを説教に生かすため、旧約神学的考察が重要であること等。出席者、五名。

なお、六月十二日(金)夜六時から九時(夕食を共にする)、東京キリスト教学園、共立記念館で部会。発表者は津村俊夫。九月十八日(金)夜七時から九時、長津田キリスト教会で部会。発表者は油井義昭氏。今後、年三回の割で部会をもつことにした。

(津村俊夫)

教会史部門

最近西洋史学会におきまして、キリスト教史の分野の立ち遅れを取り戻そうとする機運が急速に高められて来ています。このような時に神学会におきましても、教会史部門が新しく始められることは大変意義深いと思います。時代とともに生きた

キリスト教の姿を的確に把握する作業の中に、日本における福音浸透の課題を解決する鍵が見出されれば幸いです。第一回部会(五月二十二日予定)では、「歴史と福音」と題して、初代から今日に至る歴史の中

特に危機的時代に挑戦したキリスト教の本質的価値を、資料に基づいて検討したいと願っています。今後、「聖書教義における歴史的解釈の重

要性」とか「民族と教会形成の特質」など他部門との関連から、より深い研究へと進展し得るテーマも取り扱いたいと思います。一人でも多くの方が御参加下さいことを期待しております。

(書記 大滝信也)

と社会的責任をテーマとして、米国で会議を開催するということで、当部会ではこれに呼応して、七月初旬に「教会の伝道と社会責任」という題で研究討議を行う予定です。

(佐布正義)

(1) 今年十一月発行予定の会誌十二号には、昨年十二月一日の研究発表会での発表者内田和彦氏と清水沢氏がそこでの発表に基づいた論文を執筆してくださいました。

(2) 今年十一月の東西合同研究発表会の準備委員として東部より宇田進氏と大滝信也氏が選出されました。

(3) 今年の春の総会の第一候補日は五月十一日(月)ですが、前者が可能の場合は夜の講演会にオランダのフリードム大学の倫理学教授スザン・マジック氏を講師に予定しています。

献金と賛助会員加入のお願い

現在、本会会員の会費三千円は、主として学会誌発行費、印刷費、諸経費に用いられ、学会本来の働きは賛助会員(一口五千円)と献金によっております。本年は第一回神学研究会議や全国ニュースの発行など予算もふえますので、是非よろしくお願いします。

理事長 鍋谷亮爾

西部部会ニュース

一九八〇年、西部部会においては主として新約部門と旧約部門の研究会が開かれた。年度後半から今年にかけては、つぎのとおり

旧約部門

九月一日(日)

ヨーロッパ旧約学の動向(鍋谷)

二月八日(日)

「ハバクク書の研究」(I) (服部)

二月九日(日)

「ハバクク書の研究」(II) 等(服部他)

新約部門

七月七日(日)

「マルコの文体について」(久保田)

九月八日(日)

「北欧における新約聖書の権威について」(エビエダル)

二月九日(日)

「リダボスの新約聖書の権威について」(滝浦)

二月九日(日)

「ピリピ書研究」、他(久保田)

準備委員会より

第一回東西合同研究会議の要項が
二月二七日、東西準備委員によつて
左記のように話しあわれました。

記

「日本宣教の神学的再考」
「21世紀の宣教論を探る」
このテーマに従い各神学部門
より各二名の研究者をたてて

時
所
主
「日本宣教の神学的再考」
「21世紀の宣教論を探る」

西部部会総会案内

日時 一九八一年四月二〇日(月)
午後一時半～五時

場所 神戸基督教改革宗長老会
主なプログラム

・総会

・シンポジウム

「救済史の問題について」

(福音主義神学11号を参考と
して、問題の所在、背景、用語の確認、啓示と歴史、福音主義にとって救済史とは何か、
をとりあげます。)

発題者
安田吉三郎
橋本竜三
服部嘉明

シンポジウムを開く
一七日夜 海外講師による公開講演
〔ハドソン・テララ
■世の予定〕

参加費
宿泊費
三〇〇円
一泊四、〇〇〇円の予定
(食費別)

定員
七十名

福音主義神学会ニュース

第二号発刊にあたって

鍋谷

昨年一月、福音主義神学会十周年記念集会を祝福のうちにもつことができた。それは、会員数の着実な増加、学会誌の充実、部門別研究会の継続的開催と共に、会員それぞれの留学、研修、研究発表などにかけられることができます。

現在会員は名譽会員一二名、贊助会員二七正会員二四〇名、準会員四〇名、計三二九名であります。全国に、又、海外にも(一〇名)散つて、これらの会員の消息を知り、あるいは専門分野での資料情報を交換するため、個人的な連絡や学会誌によるだけでは限界がきておりますので、従来、西部部会で発行しておりますニュースを拡大し、全国ニュースを発行することに致しました。

すでに十周年記念集会の報告のためのニュースが発行されておりますので、十周年からという意味で、第二号とさせていただきました。また

配布できなかつたところがありまし

た。夏中に東西合本の会員名簿を作成する予定です。ご容赦下さい。

又、変更及び訂正の方は五月中に

お知らせ下さい。

お問い合わせ

東部部会会員名簿が不足し、一部配布できなかつたところがあります。夏中に東西合本の会員名簿を作成する予定です。ご容赦下さい。

〒651 神戸市中央区中島通二ノ三
〒神戸ルーテル神学校内
日本福音主義神学会西部部会

④一八六

東京都国立市谷保八四五三

東京キリスト教学園内

日本福音主義神学会
(東部理事長 丸山忠孝)

発行	日本福音主義神学会
編集	鍋谷 勇律
編集実務	多久和
住所	神戸市中央区中島通 2-3-5
TEL	078-221-6956
印刷所	大気堂
住所	神戸市中央区多聞通 2-6-4